



地学要略
下

5
4524



5
4524

門 5
號 4524
卷



之

部

昭和十一年
三月三日
購求

11-2-3



鯰釣

武品相州にあり海川小浮屋多く所を所まで
木より蛙をとりて竿の先へ付て浮藻の上を
蛙の飛りぬく小きふ鯰飛りて喰付て其やう
うし海く削^{ハキ}あけりともなり餌^エを刺^{サス}りたり
後^{ノチ}の宵小浮山の海^ノなるなり是を首^カを狐
う知^チりて物^{モノ}をけり^ケり^カ隠^{カク}きぬるぬる草^{クサ}あり
とあり

十番

左更衣

新海の側へ出てある給りね 古翠
給りぬりて不皿さし舟り程 沙鷗
まはぬる意心まはる給り 柴人
かゝぬるなりなり更衣 笠吏
小女^{コメ}の^ノ合^カ点^{テン}なる更衣 藤泉
更衣河原舟的の^ノなりなり 葛三
新しき魚^{イサ}喰^クむ^ム列^レぬ^ヌ更衣 卓池

老なるは物も急なり
更なるは物も静なり
山もや峰もさすれは
鳥も

右 若葉

海へわたるは水の
あふれは若葉なる
皆をわすれは
鳥も

玉河を流るる水は
あふれは水の
わすれは
若葉吹くも
月乎



東の女もあはれはのふや杜宇 子方
 待たしむるもあはれはのふや杜宇 雨考
 瓜立つて二の歳まじり南無阿彌
 人よあはれはのふや杜宇 就司
 孫のふもあはれはのふや杜宇 四山子
 なしむるもあはれはのふや杜宇 千歌
 子親人あはれはのふや杜宇 子鳳
 土のあはれはのふや杜宇 抱儀

右時鳥

甲のあはれはのふや杜宇 露求
 鳴のあはれはのふや杜宇 吏牛
 鳴のあはれはのふや杜宇 作者
 鳴のあはれはのふや杜宇 不知
 鳴のあはれはのふや杜宇 玄蛙
 鳴のあはれはのふや杜宇 為所
 鳴のあはれはのふや杜宇 日人

茶田や果心あるやしの本
善清中存分やほふ
山後身そらしき時
山風。新くしきほ
いゝ人の操を今の杜宇
おひやりしき後身の時
聲をいひ通さるるほ
時をあるにおきや

梅令
茶静
鳳郎
卓池
一具
蒼虬
梅間
風外

あゝみほくも新の歌や子規
大雨と思はれぬ南無

漫々
月居

ハ



蛇籠編

圓之解之有大小の石を結ツムる事ハ何方アツクも
あきま又所トコロ小糸コイトの籠カゴの中ナカの廻マワりクより感アツク
篠竹シノタケ木キを結ツムる其ソノ中ナカく小砂利コザリを入イれて用ユゆる
あり又塘ツツミおり下タ基ダイ子コ用ユる事コトハ何ナニ

十二番

左 新子花

杜若ツクシ今イマ咲サキ立タてる花ハナの鱗ウロコ梅ウメ令ノ

灯 <small>アキラ</small> を <small>イ</small> れ <small>て</small> あ <small>ら</small> わ <small>る</small> 中 <small>ナカ</small> あ <small>ら</small> わ <small>る</small> 花 <small>ハナ</small> の <small>枝<small>エダ</small></small>	此 <small>コノ</small> 後 <small>ノチ</small> を <small>イ</small> れ <small>て</small> あ <small>ら</small> わ <small>る</small> 花 <small>ハナ</small> の <small>枝<small>エダ</small></small>	感 <small>アツク</small> を <small>イ</small> れ <small>て</small> あ <small>ら</small> わ <small>る</small> 花 <small>ハナ</small> の <small>枝<small>エダ</small></small>	小 <small>コ</small> 糸 <small>イト</small> を <small>イ</small> れ <small>て</small> あ <small>ら</small> わ <small>る</small> 花 <small>ハナ</small> の <small>枝<small>エダ</small></small>	持 <small>ツク</small> を <small>イ</small> れ <small>て</small> あ <small>ら</small> わ <small>る</small> 花 <small>ハナ</small> の <small>枝<small>エダ</small></small>	か <small>か</small> を <small>イ</small> れ <small>て</small> あ <small>ら</small> わ <small>る</small> 花 <small>ハナ</small> の <small>枝<small>エダ</small></small>	以 <small>モ</small> を <small>イ</small> れ <small>て</small> あ <small>ら</small> わ <small>る</small> 花 <small>ハナ</small> の <small>枝<small>エダ</small></small>	乃 <small>ノ</small> を <small>イ</small> れ <small>て</small> あ <small>ら</small> わ <small>る</small> 花 <small>ハナ</small> の <small>枝<small>エダ</small></small>
素 <small>ソ</small> 辭 <small>ジ</small>	嵐 <small>アザナ</small>	西 <small>セ</small> 月 <small>ツキ</small>	宇 <small>ウ</small> 弘 <small>カ</small>	里 <small>リ</small> 之 <small>ノ</small> 女 <small>メ</small>	道 <small>ミチ</small> 彦 <small>ヒコ</small>	今 <small>イマ</small>	孝 <small>コウ</small> 心 <small>シン</small>

右牡丹

能く是をこれとて思ふ牡丹が
花は人の心より情を牡丹が
牡丹とて思ふ切なる世に於
ては皆々みぬるほらあか
しや抑も福おの牡丹赤
稚子の辞義も出ぬる牡丹哉

梅裡 嘸石 都波雄 笛成 一茶 菊三

門前を歩くのみぬる牡丹が
見し後の眼はなぬる牡丹が
あつたる皆をわびぬる牡丹が

茶静 全 有為





亀突

江戸より三十年以前より佃鳴の漁夫二人
乗舟みぎ羽根田の邊より行徳乃迎を又歩
行見付ゆや小鎧子了突取し六日七日素手あり
歸る時たゞち出布あり此龜ハ一名正覺坊と云
なりき足とれハ價余程ありきと云り房別
鳴崎野島あり此龜より長五尺ありと云
る漁家より数年取来りあり他家より取
取と聞り
都その疾病を避薬のそと又腮と蟹甲の細
毛り用ふと云り

十三巻

尾松魚

尾松魚の其味はけつり
今白くして人好む也や初鯉
松魚舟波をたれり走りぬ
水とぬれ也人初鯉
妻分る来静せ初鯉
秋暮 水竹 遠山 玄子 宇橋

上付の松魚走るを根岸が
今宵の夢もせしむる初る乎
お通の肩衣申りたる纏
りや成る見たるあゝの纏
梅令
茶静
洒一
法風

右 短歌

あまの人のふらふらと
二條のうらも起るる程の湯
雨露
全

明あき程のぬる水待きり
又るあいの波物夜の湯し
野の雪の海はるか程の明海
何若木の葉は白く明安し
多岐あうと人の子出逢ふ明海
汐の入河添むるや明海
桐節先師越後水供
上屋
西里
一具
茶静
梅令
春壺
笛成
晨支



鯰挾

上総木更津^{キサラヅ}田の溝^{ミヅ}の鯰^{ニシ}を暑^{エシ}ふく
る^ハ夜^ヨハ^ハの^ノ竹^{タケ}向^{ムカ}ふ^ハなり^{ナリ}腹^{ハラ}を^シ出^デし^テ浮^{ウキ}く
る^ハなり^{ナリ}松^{マツ}明^{アキ}を^シ照^テし^テ竹^{タケ}の^ノ狭^ヒま^マに^シん^ニま^シめ^テし^テ
夜^ヨ半^ナを^シに^シ一^{ヒト}針^{ハリ}を^シあ^ハり^テ取^リる^ハなり^{ナリ}竹^{タケ}挟^{ハサ}ハ^シ焼^{ヤキ}
て^シ真^{マコト}切^キの^ノ形^{カタ}ち^ヲあ^ハり^テん^ニま^シむ^ハ所^{トコロ}を^シ刻^キと^シ刃^ヤを^シ使^ハい^テ
用^{ヨウ}ふ^ハなり^{ナリ}



十四番

丸粽

結ぶつめる粽の茅も持て記す
 春備
 囉あこを本に足もる粽が
 風高
 又つは結ぶつめる粽が
 茶静
 粽流りて這入粽が使つ所
 蝶六
 ほりぬちもほりてぬちも粽
 由誓

右 塙

小笠原舟本をいませる粽の
 葉二
 海に暮るる粽の如
 遠洞
 穂の葉をいませる粽が
 鳳朗
 追ふる釣の玉産舟をいませる
 茶静
 舟からの馳走ぬちあるちも記が
 卓池
 新河やちもちも本に粽あり
 松翠

一色下 榭を 行まは なるり 茶静
 榭 海に 近き 舟に 舟の 櫂の 風外
 う 舟 櫂 なる なる なる なる 露氣
 か 舟 出 なる なる なる なる 日人
 驚 鳴 舟 基 盤 突 出 なる 舟 の 外 遠 洞
 臺 の 榭 留 なる なる なる なる 梅 令
 う 舟 なる なる なる なる 茶 軒
 手 採 なる なる なる なる 卓 池

榭 釣 舟 なる なる 月 舟 飛 素 志
 う 舟 なる なる なる なる 台 々
 榭 海 なる なる なる なる 作 石 知



ろろ竹作

江戸本所涉草造ふあり上徳の木更津^{キカラ}より
作る楚^チの如くたる物を詠う竹ふ斑^{ハダ}くぬりて
ひがし焼みきし後洗もて茶すなり

十五妻

丸田ろろ

暑ら福田植りうきなる里 寸也
苗一花華の流りや松林下 並也

ハ桑のうらら	田ろろ	急草	露
習ふも	如	丸	曼
茶の木ま	浴	い	海
世造	花	れ	丸
人	と	子	植
植	流	田	鳴
又	く	な	ら

田ろろ急草 有鯨 茶静 水若

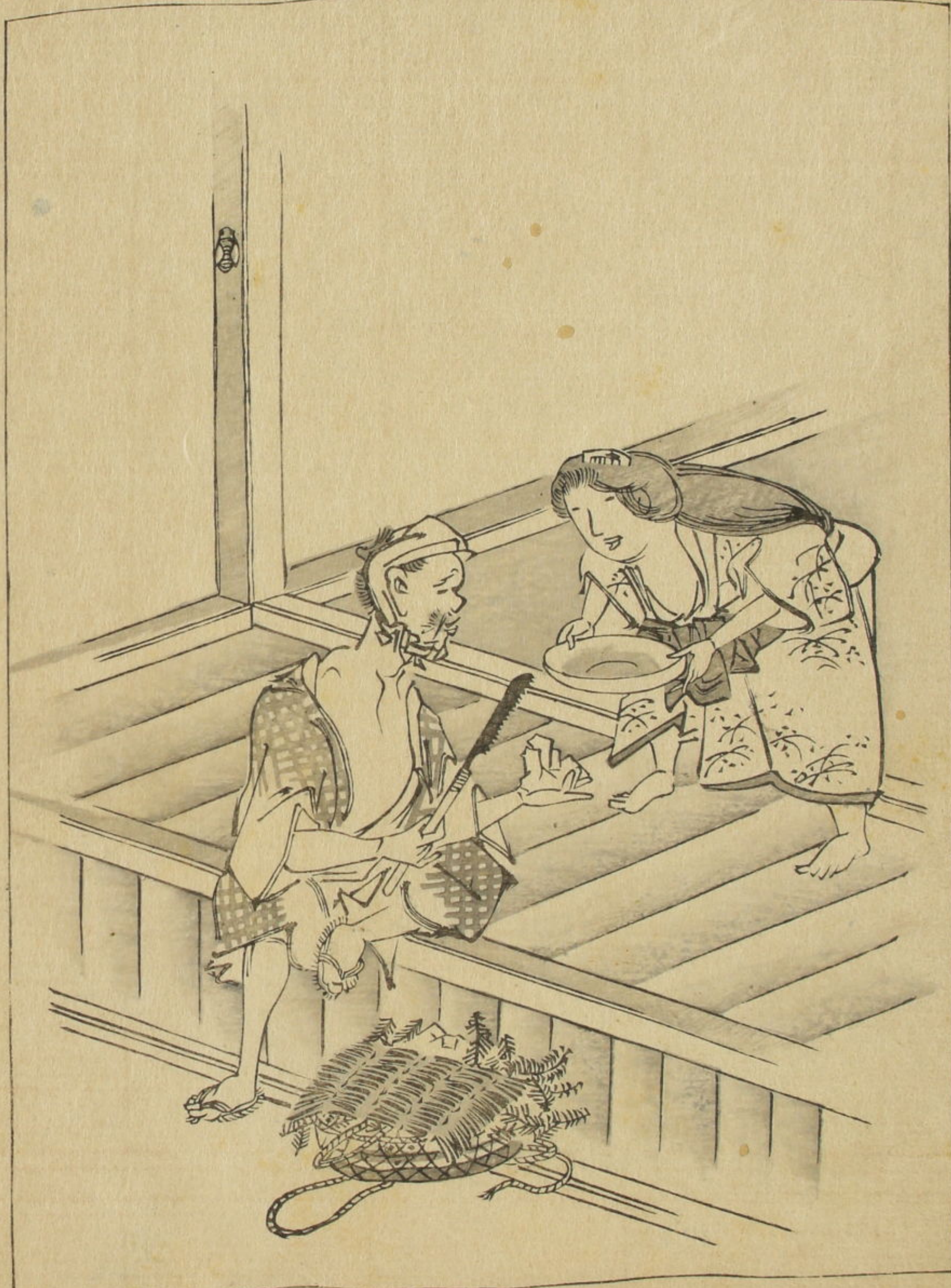
右 五月雨

人々此雨降るや重なる雨	素撰
五月雨の幸に物喰ふ男共	常安
忘八屋へ知識まねや五月雨	茶静
子福者共飯好しぬ来月句	元風
五月雨や嘆きぬ心知ぬ花	馬年
五月雨は旅人共さる早雨	浅美

五月雨の降るや重なる	月居
五月雨は水の手おき州寺	道彦
五月雨の人の家さる早雨	青淵

氷賣

出羽越後おし何りニシザシイナコク深山幽谷へおし何り里へ持出
 先ノ所の地頭又代官おし呈シテ後賣人ハ別に
 何人おし何りニ麓おし入ル毎葉をのせテ城下又
 おしシ繫シ冒シ此地へ出ル駈カケおし何りニおしテ買人あれハ
 銀ヒキおし何りニ挽ヒキ割ワリおし何りニおしテ所おし何りニ六月一日より
 七月アキナおし何りニ此氷コホリおし何りニ種タネおし何りニより
 おし何りニ各を呼ヒおし何りニ賣ウおし何りニ行ユおし何りニ



あは集撰多し
とらばあは集撰
とらばあは集撰

山の名を呼ぶ

何れも水も

梅令

十六番

左 鴨牛

多し集撰多し
とらばあは集撰
とらばあは集撰

あは集撰多し
とらばあは集撰
とらばあは集撰

風外

あは集撰多し
とらばあは集撰
とらばあは集撰

梅令

あは集撰多し
とらばあは集撰
とらばあは集撰

茶静

あは集撰多し
とらばあは集撰
とらばあは集撰

鳳郎

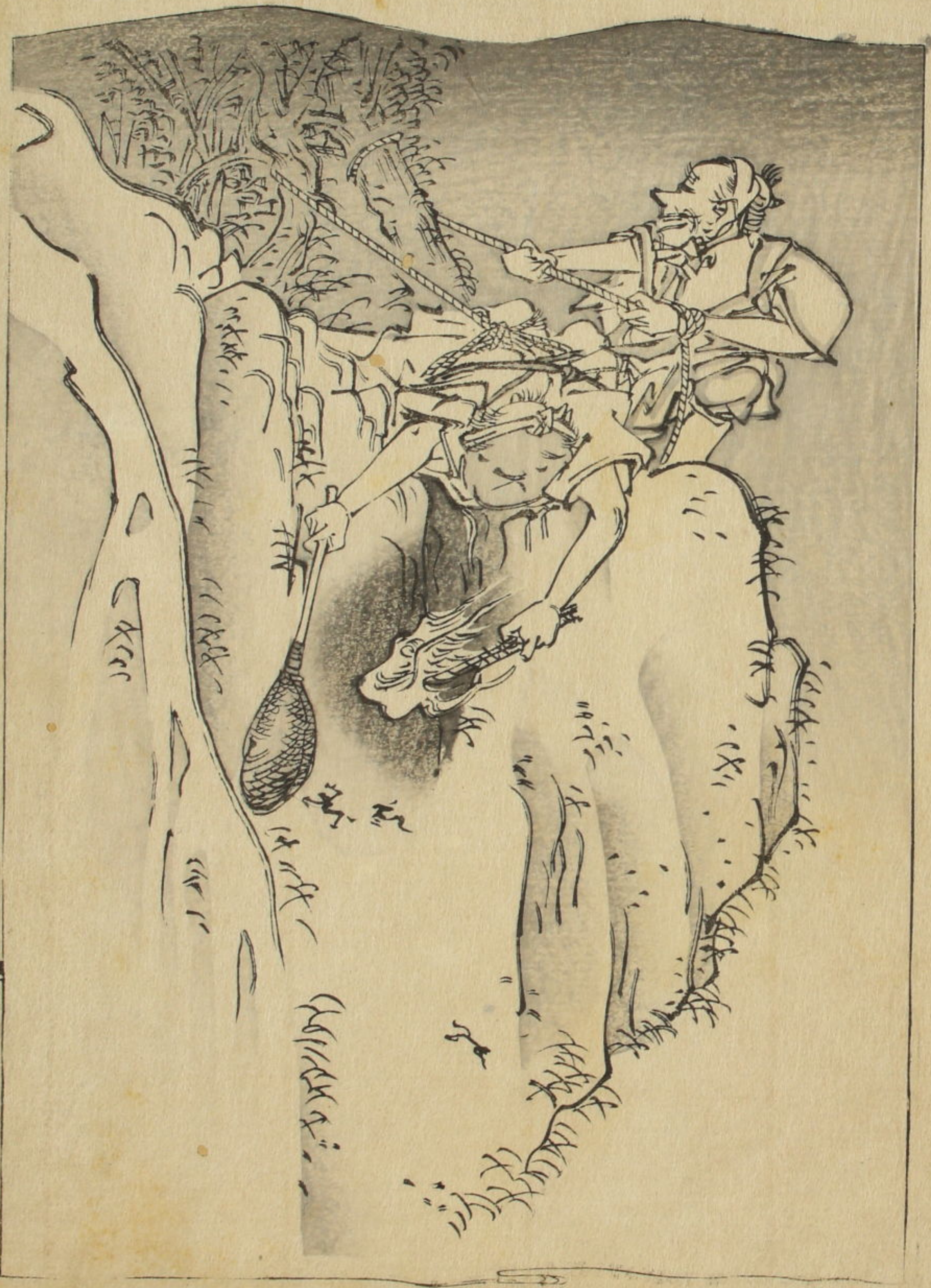
あは集撰多し
とらばあは集撰
とらばあは集撰

一茶

右 若竹

あは集撰多し
とらばあは集撰
とらばあは集撰

萬光



竹杖をのびて膝のくもり
 今新杖の残る風のうら
 若竹に持てる生けし下り申
 竹のうらみ宛ての梅の生
 鳥か竹の成りぬこり留まの中
 由誓
 多の夢
 若く白
 春静
 春路

清心也 夢の道もあつて 可成
 あり家や夢の後のおはれ 茶静
 横町の枯木屋へり 螢の如 素心
 杉の葉にさう付く 梅令
 の夢の道もあつて 夢の道もあつて 成美
 本もさうおはれ 夢の道もあつて 葛三
 取もさうおはれ 夢の道もあつて 貞富
 暖かや夢の道もあつて 夢の道もあつて 白彦

右志す

清心也 夢の道もあつて 可成
 静也 清心也 夢の道もあつて 茶静
 楠の葉にさう付く 梅令
 杖等も夢の道もあつて 夢の道もあつて 成美
 懐くも夢の道もあつて 夢の道もあつて 葛三
 一も夢の道もあつて 夢の道もあつて 貞富
 素心

系動の正すくは清水部
 飛鳥の溜るまきまき川
 旅僧の自刺くめる清水部
 あつあつの清水部
 母馬の毒く飲る清水部
 人まき母系流るまき川
 小棚と茶盆付るまき川
 法秘蔵の清水部
 遠之
 宇都
 江三
 貞風
 一茶
 玄子
 八采
 茶静

松手の産まきまき川
 山雀の浴衣あはるまき川
 山雀の浴衣あはるまき川
 守黒

福采
 日人
 梅令

蛇取

関東^{カントウ}國^{クニ}にありて小^コ鐘^{カネ}を持^モ腰^{コシ}に籠^{カゴ}籠^{カゴ}を提^ヒて来^キり蛇^{ヘビ}を割^{サキ}て皮^カを捨^ス肉^{ニク}をかり取^トり籠^{カゴ}に入る^イる
小^コ兒^ガの氣^キ力^カを益^{トク}し又^{マタ}虫^{ムシ}を去^クる事^{コト}也^{ナリ}

十八番

左 暑

此^{コノ}事^{コト}と云^イふは又^{マタ}文^{モン}を記^キすに
青^{アヲ}隠^{カケ}

青隠



夏をいふ代はあつたはる 何れも
あつたはる代はあつたはる 暑くも
溜池にをれあつたはる 暑くも
梅も暑くもあつたはる 暑くも
けりあつたはる代はあつたはる
火もあつたはる代はあつたはる
暑くもあつたはる代はあつたはる
信濃路のいふ代はあつたはる

宇橋
善高
茶静
素心
風村
太呂
乙二
一茶

夏の梅をいふはる 留風あつたはる
暑くもあつたはる代はあつたはる
暑くもあつたはる代はあつたはる
暑くもあつたはる代はあつたはる
暑くもあつたはる代はあつたはる
暑くもあつたはる代はあつたはる
暑くもあつたはる代はあつたはる
暑くもあつたはる代はあつたはる

倭當
一具
露泉
風村
一瓢
蕪心
鳳朗

右 涼

涼風の吹くそら	涼風の舞あそぶ	遠東の海を渡る	此の世に	居る所	生かす
心	心	枕を	此	都	味
を	を	を	を	を	を
引	引	涼	涼	涼	涼
引	引	引	引	引	引
士朗	素壺	里人	由哲	孝博	露泉

涼の吹くそら	涼の舞あそぶ	此の世に	居る所	生かす	味
心	心	枕を	此	都	味
を	を	を	を	を	を
引	引	涼	涼	涼	涼
引	引	引	引	引	引
一茶	万嶽	柴人	静風	元風	芥舎
一茶	万嶽	柴人	静風	元風	芥舎
一茶	万嶽	柴人	静風	元風	芥舎

